

“Share Your Ideas.”—4技能を使った言語活動

子安圭子



◀・・「読む」から“Share Your Ideas.”へ:Genius I

Genius English Communication I を採択して2年目となる今年度は3人の担当者の間でまず「できる限り英語で授業をすること」を確認して始まった。自学自習用の「学習ノート」は、生徒がそれぞれのペースで理解を確かなものにするのに大変役立っている。さらに授業の目標を“Read Actively, Think Critically”とし、生徒にも読んだ後に必ず自分はどう考えるのか人に伝える活動まで行うということを伝えた。

レッスンの最初の授業では教科書課末の“Communication Activities”にあるコンセプト・マップを配り、最後まで通して話を読むことを習慣づけた。クラスによってはさらに空所を増やしたものに、教科書を閉じてCDを聞きながら書き込みをするというリスニングとノートテキングの練習を兼ねたものにした。2学期には読みながら、あるいは聞きながら自分でコンセプト・マップを書く活動へと発展させた。マップは学習後の要約にも使う。

中学の時と教科書も授業のスタイルも変わるので、生徒に早く授業のスタイルに慣れてもらうために1学期は“Reading”, “Share Your Ideas”, “Express Yourself”の3つのセクションから成るプリントを用意した。

“Share Your Ideas”というセクションは教科書の“Discussion”を参考にして作った。たとえば, Some children will not live to be 5 years old in some countries. What can people do in order to improve this situation? (L1) や, Do you yourself use ‘furoshiki’? If not, have you

seen your family use ‘furoshiki’? (L3) などである。最初は課題として書いてきたものを次の授業で席が近い者同士で発表させていたが、慣れるに従い、その場で考えて発表することとした。時間があれば、友達と話したことを書いてまとめたり、さらにクラスで発表したりもした。

“Express Yourself”は、新出表現を使って身近な、意味のある例文を作る活動である。たとえば新出表現“what’s worse”を使って、1. Write something that actually happened to you, and tell it to your partner. 2. Listen and write what had happened to your partner. (L3) という課題に取り組みせ、その後何人かの生徒を指名して、2. で書いたことを読み上げさせた。

何かを読んだら、考える。考えたら、話す、または書く。書いたら話す。聞いたら書く。これらの活動を通じて“Share your ideas.”という言葉は合言葉のように繰り返して使われ、生徒もすぐに反応し、活動を楽しむようになった。2学期にはこのためのプリントは不要になり、“Share ...”の活動は課ごとのプロジェクトへと発展した。

◀・・プロジェクト

ボランティア活動を扱う“Alex’s Lemonade Stand” (L5) では、Plan Your Own Fund-Raising Campaign というプロジェクトに取り組んだ。生徒は自分でできるチャリティ活動を考え、用紙に Purpose of the Campaign / How will you raise money? / Location 等を記入する。生徒には自分で考えるだけでなく人に働きかけることも考えてほしいので、How will you advertise your cam-

aign? という項目も入れ、ポスターも描いてもらった。きちんと取り組んだ、いい「作品」が多く、掲示すればよかったと反省している。

◀・多読の取り組みを発表につなげる

教科書を使つてのプロジェクトと平行して、中学3年で行っていた多読の取り組みの継続を目指して Bookworms Club (Oxford University Press) の1冊を夏休みの課題とした。このシリーズは役割シートを使ってディスカッションを進行できるようになっている。グループごとに好きな短編を選び、作品の理解に重要な言葉を探し説明する Word Master や、作中に見られる文化的背景を探す Culture Collector など、一人一役で準備をし、話し合いをした後、作品が映画化されその宣伝をするという設定でグループ発表をした。映画の一場面や主演俳優と監督へのインタビューを演じたグループや、パソコンで予告編を作ったグループもあり、発表の時は大変盛り上がった。準備中、納得がいけない部分があると作品を何回も読み直しては考え、話し合う姿があちこちで見られたのがうれしかった。

3学期には友達に勧めたい本を1冊持ってきてグループ内で紹介をしてもらった。聞いている人は必ず何か質問をし、紹介者はその場で答えねばならないというルールを伝えてあったせいか、発表者と聞く人が同じ気持ちで活動を“share”し、作り上げていたように思う。

◀・Genius I を通じて世界の問題を知る

Genius I の採択の理由の1番が「教材の豊富さ」だったので、週2時間で取り組むのは大変だったが、「どのレッスンもカットしない、教科書後半に収録された本課と同じテーマの英文を読む Read On! は、スキミングなどの速読演習として扱う」という方針で授業計画を立てた。課末の“Give It a Try”は「文法習得のためだけの文法問題」ではなく内容の伴った、かつ取り組みやす

い練習なのでその場で答えを考えさせている。コラム“Sound Training”は、クイズ風で生徒にも好評だった。

生徒は次の学年にも読んでもらいたい話として“Alex’s Lemonade Stand”, “Life in a Jar”, “How the Brain Works”, “Coffee and Fair Trade”を選んだ。これらはすべて2学期以降に読んだものである。内容の魅力に加え、プロジェクトを通じて生徒たちが主体的に取り組んだことの影響も大きいのではないかと思われた。

生徒は Genius I を通じて世界の問題を知り、またその解決のために働く人の存在について知ることができたようである。最後の授業では世界の諸問題と解決の方法、そこにある共通の問題点と私たちに求められる姿勢をグループで協力して一枚のマップにまとめ、Genius II への学習につなげたいと考えている。

◀・発信につなげる Genius II

IIになると内容も難しくなり、どのクラスでもすべてを同じように扱うことは難しくなるようだが、ディスカッション、プレゼンテーション、スピーチといった様々な方法で何らかの活動を取り入れている。たとえば異文化理解を扱う“Learning Language, Learning Self”(L2)では My Experience of Encountering a Foreign Culture というテーマでスピーチをし、“Michael J. Sandel on Kant”(L9)では、自分が選んだ題目(justice, peace, equality, love, happiness)について、visual aid を使いながら、一般的な定義、身近な例、自分のメッセージを語った。

Genius II は input の題材として本文の内容が高度で優れているので、すべてを教師が授業で網羅するのではなく、生徒に自分の言葉で友達にわかりやすいように工夫して解説する機会を与えることで発表者も聞く方もお互いに理解が深まる喜びを共有できたと担当者は語っている。

(こやす けいこ・白百合学園中学高等学校教諭)